2024 年度

―― 2023.9.11 ――

社会学研究科入学試験問題(修士課程)

専門科目 「 社 会 学 」

【解答における注意事項】

1. 次ページ以降に問1と問2があります。その両方に解答しなさい。問1と問2の解答は、それぞれ所定の解答用紙に書きなさい。

2. それぞれの解答用紙の所定の欄に、受験番号と氏名を書きなさい。
問1の場合は、さらに、(1)～(6)のうち、(以下の説明にしたがって)あなたが選んだ設問番号も書きなさい。

3. 問1には、(1)～(6)の6問がありますが、そのうちの1問だけに解答しなさい。
その際、あなたが入学志願者調書 C(出願書類の一つ)に記述した研究計画の研究領域に近いとあなたが考える専攻分野の設問2問のうち1問を選び、解答しなさい。

2024 年度
社会学研究科入学試験問題（修士課程）

——2023.9.11——

科 目「 社 会 学 」

問1 以下の設問のうち、あなたが**入学志願者調書 C**（出願書類の一つ）に**記述した研究計画の研究領域に近いとあなたが考える専攻分野の設問2問から1問を選び**、問1用の解答用紙に解答しなさい。
その際、解答用紙の所定欄に受験番号と氏名を書いた上で、選択した設問番号（(1)～(6)のうち一つ）を明記して解答しなさい。特に指示がない限り、日本語で解答すること。

＜社会学＞
(1)グローバリゼーションの進展にともなってすでに生じている、あるいは生じる可能性のある社会的問題に関連する具体的な研究課題を一つ設定した上で、その課題を研究するための分析枠組みについて、社会学の概念・理論・学説を用いて詳細に論じなさい。

(2)社会調査法論の文脈では，〈量的調査（研究）/質的調査（研究）〉という二分法がしばしば用いられている。この二分法の一般的な内容について説明した上で，具体的な研究テーマや事例を用いてその問題点を論じなさい。

＜社会心理学・メディア研究＞
(3) 社会調査のサンプリングにおける標本誤差と非標本誤差について、調査手続きの具体例を挙げながら説明した上で、サンプルサイズの設定において考慮すべき点、および社会調査を実施する際の現実的な課題について述べなさい。

(4) A)頻度主義にもとづく帰無仮説有意性検定（Null Hypothesis Significant Test、以下 NHST）における p 値の定義を述べなさい。B)タイプ 1 エラーの定義を述べなさい。C)タイプ 2 エラーの定義を述べなさい。D)NHST の手続きを述べなさい。具体的な検定（t 検定、二項検定など）を例に説明しても良い。解答は日本語または英語で行うこと。

＜文化人類学・民俗学＞
(5)贈与交換と互酬性について文化人類学的にどのように論じられてきたかを、具体的な理論や事例をあげながら説明しなさい。

(6)一般に「大多数の日本人は無宗教である」と言われているが、この言説について文化人類学の視点から論じなさい。

問2 （問2用の解答用紙の所定欄に受験番号と氏名を書いてから解答しなさい）

入学志願者調書 C にて、あなたが提出したご自身の研究計画について説明した上で、その研究を遂行し、成果を公表する上での倫理的課題の論点を挙げ、研究倫理上どのような工夫が考えられるかを論じなさい。解答用紙一枚以内で書いてください。

2024年度

社会学研究科入学試験問題（修士課程）

——2023.9.11——

科 目「 心 理 学 」

下記の５問から４問を選択して解答しなさい。

１．視覚における中心視と周辺視の情報処理の違いについて、構造と機能の違いに言及しつつ説明しなさい。

２．アフォーダンスについて説明しなさい。

３．子どもは１歳半あたりから急激に語彙数を増やしていく。このとき子どもはどのように単語の意味を理解していくか、この語意学習過程についていくつかの仮説があるが、それらについて述べなさい。

４．脳の進化におけるMcLeanの三位一体説を説明しなさい。この説の正誤についてその根拠とともに論じなさい。

５．感情・記憶・思考の抑制機能について、認知心理学と神経科学の両側面から述べなさい。

2024年度

社会学研究科入学試験問題（修士課程）

――2023.9.11――

科 目「 教 育 学 」

＊以下の問題Ⅰ、問題Ⅱに答えなさい。解答はそれぞれ別の用紙に書き、冒頭に問題番号を明記すること。

【問題Ⅰ】

今井むつみ／秋田喜美著『言語の本質』（中公新書、2023年）によれば、幼児がことばを習得し世界を理解していく過程と生成AIが学習する仕方には決定的な違いがある。前者では自らの身体経験を音で象るオノマトペがその重要な契機となるのに対して、後者では、人間が入力した膨大な情報に基づく「記号から記号へのメリーゴーランド」（スティーブン・ハルナッド）が行われているのにすぎないのだという。これは生成AI研究で、ことばの対象の意味を「知る」とはどういうことかという問題（「記号接地問題」）として以前から論じられてきたものである（前掲書、ii~iii）。もっとも、今井たちは、オノマトペ以降の人間の言語（や記号）習得においても身体との直接的繋がりが必ずしも必要というわけではなく、どこかで「記号接地」していれば、帰納や類推という推論能力によって子どもは直接経験できない世界の知識も自律的に獲得していくのだとも述べている（『世界7月』岩波書店、p. 67）。

さて、現在、学校ではGIGAスクール構想、ICT教育が積極的に推進され、タブレット端末やチャットGPTをどのように活用（ないしは利用制限）するかという方法論上の議論や事例紹介が数多くなされている。しかし、重要なことは、そうした方法や事例を支える教育に関する根本的な考え方（理論や思想）なのではないだろうか。技術の急速な発展にもかかわらず教育において忘れてならない重要なことがあるとすれば、それは何だとあなたは考えますか。論理的に述べてください。

【問題Ⅱ】 以下の5問から1問を選択し解答しなさい。その際、解答用紙（【問題Ⅰ】とは別の用紙）の冒頭に選択した問題番号を明記すること。

問 1: 教育哲学や教育思想史の研究は、教育問題や教育実践に対しどのような貢献を果たしうるのだろうか。あなたの研究テーマに則しながら、その研究上の意義を述べなさい。

問 2: 近代日本教育史、社会教育史、近代西洋教育史のいずれかのなかで、あなたが重要であると考える事項を一つ挙げ、当該事項について、関連する人物、理論（思想）、運動などを例示しながら論じなさい。

問 3 (1)か(2)のどちらかを選択し、選択した問題番号を忘れず記した上で解答しなさい。

(1) ブロンフェンブレナーの生態学的システム理論を踏まえ、適応的な就学移行に影響する要因について説明した上で、現在の日本における就学移行にどのような課題があるか論じなさい。

(2) 学習の規定要因としての教育環境の性質について、主にモチベーションの観点から、複数の心理学理論を具体的に紹介しながら論述してください。

問 4: 日本の比較教育研究の多くは、特定の国や地域の研究にとどまり、比較をおこなっていないという批判がある。あなたは、この批判について、どのように考えるか。具体的なトピックを例にあげながら、あなたの考えを述べなさい。

問 5:「授業とは何か」について詳細に論じなさい。